

令和3年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 福井県福井市大手3丁目17-1  
管理機関名 福井県教育庁  
代表者名 豊北 欽一

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年4月20日(契約締結日) ～ 令和3年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 福井県立鯖江高等学校

学校長名 福嶋 洋之

類型 地域魅力化型

3 研究開発名

鯖江型高校教育「オールSABAE」の構築のもと、持続可能な地域社会を形成する  
市民の育成

4 研究開発概要

本校は平成29年度より、鯖江市役所との協働で「鯖江市デジタルパンフレット」を作成するなど、「総合的な学習の時間」だけでなく、数学や地歴公民科、理科、家庭科、芸術科音楽をはじめとする全教科で地域教材を活用した授業開発を行い、一定の成果を上げることができた。それに伴い市役所・NPO・同窓会などの市民との連携を強化し、これまでに様々な取組みを行ってきた。

これらの活動をもとにして、本事業の地域魅力化型への参加を申請し、令和元年度に本事業の指定を受けることとなった。本事業により地元鯖江市に深く根差した地方団体と本校との結びつきをさらに強め、地域と協働する高校教育のモデル、つまり鯖江型高校教育「オールSABAE」を構築し、地域資源を活用した全科目・教科でのカリキュラム開発・授業実践を全国へ発信するよう、現在取り組んでいる。

その取組みの一環として、令和元年6月に鯖江市、鯖江商工会議所、鯖江高校で三者連携協定を結び、本校の教育活動に地域の方々に深く関わっていただける体制を作ることができた。この連携により、地域から様々な方に教育活動に参加していただくことができ、より広く、より深い

教育活動を行うことが可能となった。

これらのことを踏まえ本研究開発では令和元年度に引き続き、①市民との協働による学びを促進し持続可能な地域社会を形成する市民を育成する、②市民との協働による学びにより生徒の探究力を育成する、③市民との協働による学びの成果を広く発信し地域の中核としての学校を目指す、という3つの目的を設定した。さらに、育成を目指す地域人材像として、①地域への愛着と貢献意識をもち地域の未来を育てる市民、②地域の伝統や文化を継承し新たなことへのチャレンジ精神をもつ市民、③多様な価値観を共有しあらゆる人々を包摂する社会を形成する市民、④持続可能な地域社会の形成に向け自ら考え行動する市民、という4つを設定した。

このような地域人材を育成するため、①多様な情報を収集し、それをもとに自分で考えをまとめ表現する力、②他者に共感し協調して問題解決を図る力、③目標の達成に向けて計画を立て行動する力、といった3つの具体的能力を育成することを目標に、本研究開発を実施していく。

#### 5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

・学校設定教科・科目	開設している	・	開設していない
・教育課程の特例の活用	活用している	・	活用していない

#### 6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
佐川 哲也	金沢大学地域創造学類長	地域研究の専門家からの外部評価
田中 謙次	福井経済同友会人づくり委員会副委員長	地元経済界からの外部評価
宮本 昌彦	鯖江市産業環境部長	地元行政からの外部評価
澤 和広	鯖江市中学校長会長	地元中学校からの外部評価
齋藤 多久馬	福井県社会福祉協議会副会長	地元関係団体からの外部評価

#### 7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
鯖江市役所	佐々木勝久
福井経済同友会	江守康昌・林正博
金沢大学地域創造学類	佐川哲也
福井大学教職大学院	松木健一
福井県立大学	進士五十八
鯖江市中学校長会	澤和広
福井新聞社	吉田真士
NPO 法人エルコミュニティ	竹部美樹
鯖江高校同窓会	久保田治裕
福井県教育委員会	豊北欽一

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	木村 優	福井大学教職員大学 准教授	雇用関係なし
海外交流アドバイザー			
地域協働学習支援員	竹部 美樹	N P O 法人 エルコ コミュニティ 代表	雇用関係なし

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
コンソーシアムについて			1回		1回	1回			4回	1回		1回	1回
カリキュラム開発等専門家について	1回				1回					1回			
地域協働学習実施支援員について			1回	1回									
運営指導委員会について									1回			1回	

(2) 実績の説明

・コンソーシアムについて

活動日程	活動内容
令和2年6月26日	本校生徒の地元テレビ出演の視察 ・クッキング部が吉川ナスをアレンジした料理3品を調理し紹介している様子を，鯖江市役所職員が視察をした。
令和2年8月17日	鯖江市の企業との交流会の実施（事前打ち合わせ有） ・1年探究科の探究活動で，鯖江市商工会議所の紹介による地元企業5社と交流会を実施した。 ・各企業の担当者も参加してレポート発表を行い，担当者からの助言もいただいた。
令和2年9月2日	鯖江市，商工会議所へのアンケート ・三者連携協議会の代わりに，アンケートにより意見を集約した。 ・鯖江高校に求める学校像や生徒像を聴取した。
令和2年11月9日	新聞記者による特別授業の実施（事前打ち合わせ有） ・昨年度に引き続き1年普通科で講演会を実施した。 ・福井新聞記者に，その場で直接生徒の活動を支援し

	ていただいた。
令和2年11月20日	2年探究活動中間報告会の実施（事前打ち合わせ有） ・2年の探究活動の中間報告会を公開した。 ・鯖江市，SDGs推進室の担当者に，生徒への助言および活動の支援をしていただいた。
令和2年11月25日	鯖江市役所との打ち合わせ ・これまでの活動についての確認をした。 ・今後の活動についての協議をした。
令和2年11月25日	教員研修会の実施（事前打ち合わせ有） ・「エコネットさばえ」の担当者により，カードゲームを通して，2030SDGsについて研修会を行った。
令和2年12月14日	探究科2030SDGsカードゲーム体験の実施（事前打ち合わせ有） ・1年探究科の探究活動で「エコネットさばえ」の担当者により，カードゲームを通して，2030SDGsについて特別授業を実施していただいた。
令和3年2月12日	前鯖江市長と語る会の実施（事前打ち合わせ有） ・10月に鯖江市長を退任された牧野百男氏を招いて，1年生全員に講演会を実施した。 ・牧野氏のこれまでの取組みを紹介していただき，鯖江市への理解を深めた。 ・放課後には教員対象にも講演会を実施した。
令和3年3月16日	SDGs啓発ポスター発表会 ・2年生の総合の時間に作成したポスターの発表会を実施した。 ・SDGs推進室の担当者に，生徒への助言および活動の支援をしていただいた。

・カリキュラム開発等専門家について

活動日程	活動内容
令和2年4月29日	教員研修に関する打ち合わせ ・本校教員研修の計画や内容に関して指導・助言をいただいた。
令和2年8月12・13日	生徒国際フォーラムへの生徒の参加について ・生徒の参加への指導をしていただいた。 ・運営に関する打ち合わせを行った。
令和2年12月10日	地域探究カンファレンスでの協議 ・探究活動における地域との連携の在り方などについて協議を行った。

・地域協働学習実施支援員について

日程	内容
令和2年6月23日	今年度の実施計画について打ち合わせ
令和2年7月20日	教員研修会の実施（事前打ち合わせ有） ・地元鯖江市の現状や魅力などを指導していただいた。

・運営指導委員会について

活動日程	活動内容
令和2年11月20日	第1回会合 ・「総合的な探究の時間」の授業を視察した。 ・これまでの活動内容について協議を行った。
令和2年2月19日	第2回会合 ・「総合的な探究の時間」の授業を視察した。 ・これまでの活動内容および次年度（最終年度）に向けた予定について協議を行った。

・高等学校と地域の協働による取組みに関する協定文書等の締結状況について

活動日程	活動内容
令和3年2月26日	仁愛大学と鯖江高校との高大連携・高大接続に関する協定書締結 ・課題研究（探究活動）の指導にかかわる事項，授業力向上のための研究活動に関わる事項，その他本協定の目的に関わる事項について，協定を締結した。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年探究科での科目「探究」における課題設定					1回		1回	2回	2回		1回	
1年普通科での「総合的な探究の時間」における新聞づくり							1回				2回	
2年「総合的な探究の時間」におけるSDGsに関する探究活動								1回				1回
総合的な探究の時間以外での地域人材活用			1回	1回							2回	
授業改善のための教員研修会				1回				1回			1回	

## (2) 実績の説明

### ・研究開発の内容や地域課題研究の内容について

#### ① 1年探究科での科目「探究」における課題設定について

今年度、新学科「探究科」が設置され、「探究」の時間が1年次で1時間、2～3年ではそれぞれ2時間ずつ実施され、充実した活動が可能である。本年度、1学期は1年普通科とともに探究活動の基礎的なスキルの習得および意欲の向上を目指して取り組んできた。2学期からは普通科とは別に、2年次からの本格的な探究活動に向けて、課題設定の準備に取り組んできた。まずは身近な鯖江市について知るために、「鯖江市の企業との交流会」を実施し、企業での活動内容や経営理念などを理解したうえで、その場でレポートを作成し、各企業の担当者を前に発表をする活動を行った。また福井県について県未来戦略課の方を招き、「ふるさと福井の未来を一緒に考えましょう」という活動を行った。

次に探究課題を考えていくために、仁愛大学と新たに連携をとり、課題研究の進め方や研究手法などについて、理系、文系のそれぞれの専門の立場から指導をしていただいた。12月に入って、エコネットさばえから、カードゲーム「2030SDGs」の公認ファシリテーターの資格を有する榎原秀典氏に、カードゲームを通して、自分の住む社会や生活に置き換えて考え、追究したい課題を見つけさせる活動を行った。

3学期には具体的な課題設定作業に入り、2年生での本格的な探究活動に向けて活動を進めた。

#### ② 1年普通科での「総合的な探究の時間」における新聞づくりについて

昨年度までの普通科とは異なり、本年度より普通科はスタンダードコース、スポーツ・健康福祉コース、IT・デザインコースの3コース編成となった。それにともない、各コースごとの特色を活かした探究活動を行っていくこととした。そのために1学期は探究科と同様、探究活動の基礎的なスキルの習得および意欲の向上を目指して取り組んできた。2学期以降は昨年度の1年次の実績を踏まえ、新聞づくりの活動を通して、探究活動に必要な情報の取り扱い方などを学ぶ活動を行ってきた。まずは昨年度と同様、福井新聞社の記者に講演をしていただき、新聞記事について直接指導していただいた。その後、各自で作成していく新聞記事のテーマを検討し、情報を収集、インタビューなどの調査活動を行い、実際に新聞記事を作成し、発表することで、課題研究の全体の流れを実際に体験できるようになる。インタビューをする対象の選定にはコンソーシアムに協力をしていただき、それぞれのテーマに合わせて、多くの方にインタビューを行った、直接インタビューができないものに関しては、オンラインでのインタビューも行った。

2月12日に、1年生全体（普通科、探究科）に令和2年10月に鯖江市長を退任した牧野百男氏による講演会を行った。本校卒業生である牧野氏に鯖江市のこれまでの取り組みなどについて熱く語っていただき、生徒に鯖江に関して、より興味をもたせることができた。

#### ③ 2年「総合的な探究の時間」におけるSDGsに関する探究活動について

新型コロナウイルスの影響により、昨年度末に計画していた、鯖江市および鯖江商工会議所の協力による分野別の座談会が実施できなくなり、3学期での課題設定の準備ができなくなった。また今年度当初、学校外の人との接触ができなくなったことで、地域の人との交流ができなくなったため、活動内容を鯖江市も力を入れているSDGsに重点をおいて、それぞれがテーマを設定して、各自でインターネットなどを活用して探究活

2学期に中間発表会を設定し、これまでの探究活動の報告を行った。この発表会では、鯖江市とさばえSDGs推進センターから担当者を招聘し、各報告それぞれに今後の生徒の探究活動等について指導・助言をいただいた。

3学期はこれまでの活動をもとに、SDGs啓発ポスターを作成し、3月16日に発表会を実施した。発表会にはSDGs推進センターの方をお迎えし、生徒への助言および活動の支援をしていただいた。

#### ④総合的な探究の時間以外での地域人材活用について

今年度当初は新型コロナウイルスの影響により、昨年度から計画していた外部人材の活用ができない状況が続き、改めて可能な活動を模索してきた。今年度の地域人材を活用した活動は下記のとおりである。

##### ○テレビ生放送によるクッキング部による吉川ナスのアレンジレシピの紹介

昨年度に引き続き、クッキング部では地元食材を使ったレシピ開発を継続しており、6月26日に地元のFBCテレビの番組に生放送で出演し、吉川ナスの歴史、収穫体験、魅力、アレンジレシピなどを紹介した。

##### ○地理の授業での野外活動

7月31日に3年地理の授業で、運営指導委員でもある田中謙次氏を含む田中地質コンサルタントの方により、野外活動「鯖江の地質や地形から分かること」の実施。地質の専門家により、学校周辺の断層などの地層について、直接観察することで詳しく説明を受けた。

##### ○音楽の授業での人形浄瑠璃体験

2月10日に2年音楽の授業で、地元の有志で立ち上げた「近松座」から、大橋國利氏をはじめ7名をお招きして、人形浄瑠璃の体験活動を行った。実物の人形や三味線を直に触れることができ、歴史や当時の文化を感じることができた授業であった。

##### ○音楽の授業での民族楽器体験

2月17日に1年音楽の授業で、昨年度に引き続き、民族楽器収集家であり「轟音」というアマチュア演奏集団の一員でもある森眞一郎氏をお招きし、20種類を超す楽器を演奏する授業を行った。普段から目にしない学期に触れるだけではなく、テーマを決めて演奏するなど、いろいろな経験ができ、楽器を通して異文化に触れることができた。

#### ⑤授業改善のための教員研修会について

昨年度の運営指導委員会で、「生徒たちに地域との協働活動を指導していくためには、教員自身が地域についてもっと知るべきである」との指摘を受け、7月20日にNPO法人エルコミュニティ・代表の竹部美樹氏を講師として招き、鯖江市の現状や様々な取り組みなどを詳しく説明していただき、教員全体の意識を高めた。この研修会を受けて、教員を数名ごとのグループに編成し、グループごとに授業研究を実施していき、教科の枠を越え連携して教育活動が行えるようにした。

11月25日にはエコネットさばえからカードゲーム「2030SDGs」の公認ファシリテーターの資格を有する楳原秀典氏に、生徒の活動と同様にカードゲームを指導していただき、教員自身もSDGsの現状や取り組みなどを実感できる活動を実施した。

2月12日には生徒への講演会に引き続き、前鯖江市長の牧野百男氏による講演会を教員対象にも行った。牧野氏のこれまでの取り組みを紹介していただき、生徒とともに、教員も鯖江市への理解をさらに深めた。

・地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各

教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

地域人材や地域資源などを活用した探究活動を、各学年での「総合的な探究の時間」で実施した。

また、各教科での内容と必要に応じて、地域との協働により特別授業などを実施した。

- ・地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組みについて

来年度、探究科2年次で探究を取り入れた教科の授業を実施し、総合的な探究の時間や教科を横断した授業を実施する計画である。

- ・地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

今年度より校務分掌として「探究研究部」を新設し、地域協働活動・探究活動・学力向上・教員研修などの業務を教員5名で担当した。

- ・学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

地域協働推進委員会（校長、教頭、探究研究部長、教務部長、進路指導部長、各教科主任、定時制教頭）を設置し、探究研究部を中心として全教員で研究開発を推進している。

- ・学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

地域協働推進委員会、運営指導委員会などでの進捗状況を把握する。

探究研究部との情報共有を行う。

- ・カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組みについて

鯖江市・鯖江商工会議所・鯖江高校相互連携協定の連絡協議会での進捗状況の確認および指導・助言・提案などを行う。また、各行事での企画・運営に関して指導・助言などをいただく。

- ・運営指導委員会等、取組みに対する指導助言等に関する専門家からの支援について  
運営指導委員会を2回実施、指導・助言を受ける

- ・類型毎の趣旨に応じた取組みについて（地域魅力化型の活動として）

地元テレビ局の生放送で、クッキング部が吉川ナスのアレンジレシピを紹介した。

地質専門家による地理の授業で、野外活動を行い、鯖江の地質や地形を知った。

鯖江市の企業との交流会を実施し、地元企業の取組みや魅力を知った。

音楽の授業で人形浄瑠璃の体験をし、鯖江の歴史や文化を理解した。

- ・成果の普及方法・実績について

地域協働ニュース第1号～第16号を作成した。

広報誌を作成し、鯖江市の中学生に配布し、鯖江市役所にも置かせていただいた。

各行事でのマスコミへの取材要請、及び対応を行った。

## 1.1 目標の進捗状況、成果、評価

本事業の成果目標として、「表現力」「協調力」「行動力」の3つの力を、生徒が習得すべき能力とする。自己評価および他者評価を行い、「卒業時に3つの能力が全て習得できた生徒の割合を全校生徒数の85%以上とする」と設定した。「高校魅力化評価システム」のアンケート結果から次のような指標となった。



	アンケート項目	全校生徒の割合 (%)			学年毎の割合 (%)					
		2019年度	→	2020年度	増減	入学年度	2019年度	→	2020年度	増減
表現力	自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	71.8	→	68.8	-3.0	2020 入学生	64.4			
						2019 入学生	65.3	→	71.4	+6.1
						2018 入学生	72.0	→	72.7	+0.7
						2017 入学生	77.5			
	友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	59.8	→	57.5	-2.3	2020 入学生	53.4			
						2019 入学生	48.3	→	60.5	+12.2
						2018 入学生	57.0	→	60.7	+3.7
						2017 入学生	73.8			
協調力	自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	89.7	→	90.2	+0.5	2020 入学生	87.7			
						2019 入学生	90.5	→	93.2	+2.7
						2018 入学生	87.6	→	91.3	+3.7
						2017 入学生	91.3			
	相手の意見を丁寧に聞くことができる	91.1	→	90.2	-0.9	2020 入学生	88.5			
						2019 入学生	91.2	→	91.2	±0
						2018 入学生	89.2	→	91.8	+2.6
						2017 入学生	93.1			
	共同作業だと自分の力が発揮できる	72.6	→	72.4	-0.2	2020 入学生	69.2			
						2019 入学生	72.1	→	74.1	+2.0
						2018 入学生	69.4	→	75.4	+6.0
						2017 入学生	76.9			
行動力	目標を設定し、確実に行動することができる	65.1	→	63.0	-2.1	2020 入学生	57.6			
						2019 入学生	57.8	→	64.6	+6.8
						2018 入学生	62.4	→	69.4	+7.0
						2017 入学生	75.0			
	自分で計画を立てて行動することができる	69.2	→	64.2	-5.0	2020 入学生	56.9			
						2019 入学生	63.3	→	65.3	+2.0
						2018 入学生	64.5	→	73.2	+8.7
						2017 入学生	80.0			
	自主的に調べものや取材を行う	60.4	→	58.3	-2.1	2020 入学生	49.0			
						2019 入学生	46.9	→	55.8	+8.9
						2018 入学生	54.3	→	73.2	+18.9
						2017 入学生	67.5			
	学校以外のいろいろな人に話を聞きに行く	29.2	→	30.9	+1.7	2020 入学生	27.7			
						2019 入学生	21.1	→	33.3	+12.2
						2018 入学生	26.9	→	33.3	+6.4
						2017 入学生	31.9			

- ・昨年度と比べ、全校生徒の割合で見るとほぼ全ての項目で数値が減少している。これは昨年度に比べて1年次の数値が低くなっているためで、新型コロナウイルスの影響により、活動時期が遅れ、また活動に制限があったためだと考えられる。しかし入学年度別の進級後の数値では全ての項目で上昇しており、生徒の意識は確実に向上している。

- ・「高校魅力化評価システム」のアンケート結果を分析すると、昨年度に比べ特に今年度2年生(2019入学生)の「探究性」「社会性」の伸び率が顕著である。
- ・「自主的に調べものや取材を行う」項目の2018入学生においては、昨年度54.3%→今年度73.2%と約20%上昇した。「学校以外のいろいろな人に話を聞きに行く」項目の2019入学生においては、昨年度21.1%→今年度33.3%と約12%上昇しており、探究活動その他様々な教育活動の成果の表れであると考えられる。

## <添付資料>目標設定シート

### 1.2 次年度以降の課題及び改善点

#### ・3年間のカリキュラムの作成

本事業は本年度で2年を終了し、2年間のカリキュラムを検討し実施してきた。来年度は最終年度であり、3年間のカリキュラムを作成し実施していく。しかし昨年度末から本年度当初にかけて新型コロナウイルスの影響により、活動そのものが制限を受け、計画通りに実施できずに内容を一部修正しながらの実施となったため、来年度以降は1～2年次のカリキュラムの内容を再度検討・実施して、必要があれば修正していくことも必要があると考えられる。

#### ・学科・コースに合わせたカリキュラム作り

これまでは普通科のみの学科であったが、今年度探究科が新設され、また普通科もスタンダードコース、スポーツ・健康福祉コース、IT・デザインコースの3コース編成となり、それぞれの特徴に合わせたカリキュラムが必要になった。今年度の現2・3年生は学年で共通のカリキュラムだが、1年生に関しては探究科と普通科で差別化を図り、2学期から異なるカリキュラムで「総合的な探究の時間」を行ってきた。来年度の2年次では普通科でもコースによる特色を活かしたカリキュラムを検討し開発していくために、コンソーシアムの協力を得ながら地域と協働した取組みを計画していく必要がある。

#### ・生徒の探究活動の充実

今年度は新型コロナウイルスの影響により、学校外の人との接触が制限され、地域との協働が十分にできなかった部分が多かった。探究科は1クラス38名であるため、小規模の集まりで実施できたものも多かったが、普通科全体では規模が多くなり、活動できないものも多い。今後はそのような状況でも活動が可能な地域との協働の在り方を検討し、実施していく必要がある。

#### ・教員研修の充実

昨年度の課題を踏まえ、本年度は教員が鯖江市についてもっと知ることを目的に教員研修会を実施してきた。年度が変われば教員の異動などもあり、また別の講師によって違った観点から鯖江市について研修会を行うことで、全教員が本事業に向上心をもって参加していきけるように継続していく必要がある。また今年度から実施している、教科の枠を越えたグループでの授業研究をさらに進め、授業改善や指導力向上について互いに理解を深めて研究していけるよう取り組んでいく。

#### 【担当者】

担当課	福井県教育庁高校教育課	T E L	0776-20-0549
氏 名	山田 寛之	F A X	0776-20-0669
職 名	主任	e-mail	h-yamada-7q@pref.fukui.lg.jp